

## ま え が き

子どもが成長を遂げていく上で、幼児期段階の持つ意義は深くかつ大きいものがあります。幼児期の子どもたちは親子の触れ合いを重ねながら、徐々に自分のやりたいことを見つけたりそれを自発的に実践したりするようになります。幼児期における教育は、こうした就学前の個々の子どもたちの様々な生活経験を基礎としつつ、教育的な育成の視点を組み込んだ物的・空間的環境や子ども集団という社会性を体験する場を構成的に設定して、「人格形成の基礎」を培おうとするものであります。したがって、幼稚園での教育・保育に際しては、一方で家庭との連携を図ることが大切であり、他方で小学校教育への展開を見通しながら発達や学びを育んでいく必要があります。

いうまでもなく、近年の社会環境の変化には著しいものがあります。なかでも、医療技術や情報技術の革新・高度化はめざましく、これまでには自明とされてきた人間の生命観、生活圏という地理的な距離観念、さらには意思疎通に要する時間的な制約について克服しようとする志向が強まっています。これに呼応するように人間関係や家族関係のあり方、さらには生活スタイルや雇用形態などがめまぐるしく多様化・拡散化してきました。ひるがえってみて、では子どもの生活環境はどうなっているのでしょうか。こうした問いに対しては、誰の目から見ても、子どもにとっても例外なく、目に見える影響のみならず潜在する面も含めた多大な影響を受けていると断言して間違いありません。あらためて、この著しく変容する社会の中で子どもたちが身につけていくべき「生きる力の基礎」を形成するという、幼稚園教育に課されている今日的使命を自覚せざるを得ません。

本園では、幼児期の特性をふまえながら一人一人がこの時期にふさわしい生活を経験できるような教育課程の策定を目指して、平成 20 年度から 3 年間にわたり「学びをつなぐカリキュラムの編成に向けて」を研究テーマに掲げて検討してきました。昨年度、その集大成として「学びをつなぐカリキュラム」を標榜した教育課程の策定・編成に至ったところであります。これを受けて、それでは指導計画にはどのような見直しが必要となるのだろうかという問いを立て、今年度の研究は、「自分づくりを支える生活プラン」という基軸を立ててこれまでの指導計画を点検してみることを課題として進めてきました。本紀要では、「わくわくワールド」（年長児宿泊体験）と「なかよしウィーク」（異年齢児混合グループ）の二つの活動に事例を求めて、考察しています。

今年度、本園では 6 月と 11 月の 2 回にわたって保育を公開いたします。これまでの研究成果を含めて、私たちの取り組みについて多様な観点からご覧いただければ幸いです。あわせて、どうぞ忌憚のないご意見、ご指摘、ご感想をいただきますようお願いいたします。

最後に、熱心なご指導をいただきました諸先生方をはじめ、ご多用の中ご来会いただきました皆様に心より御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成 23 年 6 月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園長 田邊 俊治